



# 俳句ゆめクラブ会報

2022年3月29日

第 142号

## 「吟行」 土呂・「市民の森」

恥ずかしながら今日の吟行をすっかりと忘れていて、集合時刻を過ぎた頃に電話を貰った後で慌てて用意をして出掛けた次第、数日前まで覚えていたのに何とも情けないことである。

今年の桜は開き始めたら急に一斉に咲いて満開となつたがその後の天候が不順で今日も肌寒い一日だった。それでも市民の森には子供達も多く明るい声が響いており雨の心配もなさそうなのが幸いであった。

「句会」グリーンセンター 13時～14時30分

### 梅田先生の句

風冥く流れてしだれ桜かな  
豆桜天へつぶやくやうに咲く  
今年また万朶の花にときめきぬ

### 梅田先生選

《特選》  
花の雲少女の夢のひろがりぬ  
満開の桜の中に立ち尽くす  
花巡り風無き広場まつたりと  
花冷えの森駆け回る園児たち  
桜いま手毬のごとく咲きほこり  
鈍色の大いなる空桜花

満開の花川面へと枝垂れけり

花冷えと思はざりしよ子等とリス

咲きみちて風にただやう桜かな

老桜幹に力の二花三花

花満ちて命ゆるめる一日かな

満開の桜従へ風車塔

### 《入選》

咲きそむるみつばつつじを見上げたる

花曇り子の声響く広き園

用水に垂かかりたる桜かな

新入生記念撮影ポーズとる

大空へ桜花爛漫たりしかな

つくしんぼ土を分け出で背くらべ

高木の根元より生え桜咲く

花冷えや歪みてゐたる友の顔

花の下走り回る子平和なり

囁りに耳をすまして聞き止むる

花冷えに負けず歓声あげる子等

シマリスの素早き動き花曇り

用水にうつる大樹の桜かな

芝青む四阿のある大広場

ぼんぼりのごと満開の桜かな

花曇園にひろがる子等の声

声こぼしつづつ枝移る四十雀

草萌えのリスたち右往左往かな

吉澤愛子

岡田時雄

大井昭子

浅見法子

八千代幸男

岡田時雄

大井昭子

岩松忠子

浅見法子

瀬戸川公子

瀬戸川公子

長澤輝子

岡田時雄

岩松忠子

鈴木幸恵

長澤輝子

鈴木幸恵

小林健一郎

宮島昭夫

吉澤愛子

長澤輝子

大井昭子

浅見法子

瀬戸川公子

### 互選

黒々とせる枝広げ桜咲く  
四方よりスマホを向けて大桜

鈴木幸恵  
宮島昭夫

風冥く流れてしだれ桜かな (3票)

梅田ひろし

つくしんぼ土を分けての背比べ (3票)

長澤輝子

豆桜天へつぶやくやうに咲く (6票)

梅田ひろし

満開の花の枝垂るる川面かな (3票)

よ志沢愛子

老桜幹に力の二花三花 (5票)

浅見法子

花満ちて命ゆるめる一日かな (6票)

八千代幸男

満開の桜をまどふ風車塔 (7票)

岡田時雄

### 「決定事項・連絡事項」

・次回句会 4月26日(火) 13時より

県活201号セミナー室

兼題「春惜しむ」

他に自由題で二句、合計三句提出のこと。



・本日は12名全員出席

(小林健一郎記)

(了)